

■今こそ復興宝クジを！

平成23年3月11日、この日を日本人は、生涯忘れることはないでしょう。まさに未曾有の大災害となった東北関東大震災。さかのぼること3年前、三陸沖を震源とする大地震が99%の確率で、いつ起きてもおかしくない時期に突入したと言われ、医療機関では阪神淡路大地震を教訓に、落ちても壊れない点滴バッグに全面的に切り替えたのもその頃でした。

私自身、奇しくも仙台で買った停電でも使えるというアラジンの石油ストーブが、こんなに早く役に立つとは、その時は思いもよりませんでした。そんな危機感も3年も経ち、やや希薄になりかけた矢先の今回の大地震、大津波です。

国の援助は勿論のこと、災害を免れた日本人が今できることは、一人一人が伊達直人になることです。戦後の混乱を救った復興宝クジを少しでも早く発売して、被災された方々の心の痛みを日本全体で分かち合おうではありませんか。

平成23年3月分原稿

はらクリニック院長 原 徹